

## 問題行動を起こす生徒への担任の関わり

### 1 はじめに

問題行動を繰り返す生徒に対して、担任としてどのように関わればよいのでしょうか。一つの事例を参考にまとめてみました。

A男は運動能力が高く、部活動でも野球部に所属し、2年生の夏休み前までは主力選手として活躍していました。しかし、夏休み始めから生活が崩れ始めました。主な問題行動として、無免許運転・深夜徘徊・家出・暴行を起こし、校内では、喫煙・授業エスケープ・教師に対する暴言や威嚇などを繰り返していました。

3年生の1学期に保護観察処分を受け、しばらくは落ち着いていましたが、2週間ほど経過した頃から問題行動を繰り返すようになりました。9月には対教師暴力を起こし、ますます生活が乱れる心配もありましたが、そこから立ち直った事例として紹介します。

### 2 3年生の1学期の始業式に家庭訪問をして話し合い、伝えたこと

始業式の日、私は「1年間、よろしく」と言いながら、A男に握手を求めました。すると、拒否することなく、握手に応じました。この時、私は「うまくいくかもしれない」と思いました。早速、家庭訪問を行い、保護者、本人と話し合いました。その内容を、次に列挙します。

- 今までの状況について（2年生までの状況を本人・保護者から聞く）
- 保護者の思い（3年生になって・将来に対する思い）
- 本人の気持ち（3年生になって・将来に対する思い）
- 担任としての思い

#### 【A男に求めること】

- ・ 善悪の判断ができる。（感情的になっても我慢できる回数を増やす）
- ・ 今の状態は悪いという自覚を持つこと。
- ・ 腹が立ったことがあれば、まずは担任に話してほしい。
- ・ 1年生の時は部活動にも力を入れていたので、3年生になって部活動に入ったらどうかと勧めた。

#### 【担任として】

- ・ 自分が過ちを起こした時は、素直に反省または謝罪する。その時は担任も一緒に謝罪する。
- ・ 教師と生徒という関係だけでなく、男同士の約束ができるようにしたい。
- ・ 今までとは違った事実を残させたい。
- ・ 人から認められる事実を作らせたい。

- 担任としてこれだけは絶対に許せないこと。
  - ・ 自分が間違っただけの行為をした時、絶対に言い訳をしない。
  - ・ 学級の仲間を裏切る行為は絶対に許さない。
  - ・ 早退する時は必ず担任に自分の口で報告する。
- 担任との約束。
  - ・ 嘘をつかない。
  - ・ 腹が立った時は担任に一番に話す。
  - ・ 人を傷つけない。

### 3 問題行動を繰り返すA男に対して配慮したこと

4月当初は授業に全く出られない状態でした。校外へ行ったり、喫煙したり、他校へ行ったりと

落ち着かない状態でした。話をすると、素直に聞くものの、一向に改善しません。問題行動はおさまらず、繰り返しの指導が続きました。指導の効果は上がらずに、時だけが過ぎてしまいました。

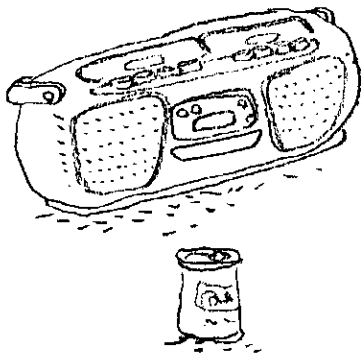
A男と関わる中で自分自身の指導方針や対応に、迷いや苦しみを感じた時期でした。自分一人で対応している時に、回りの協力があまり得られなかったことも辛いことでした。A男が問題を起こす度に、「またか・・・」「担任は・・・」という雰囲気を感じました。担任として何もできないままの状態が続き、一番苦しかった時期でした。

とにかく、本人に寄り添い、気持ちを理解することに努めました。そのために、朝と放課後には個別に話すように心がけました。コミュニケーションを図る上で、次のようなことを大切にしました。

- 気になる行動だけでなく、誉める部分や関心のある話題から。
  - ・ 気になる程度の行動は短く指摘し、小さなことでも誉める。学級の中でも紹介する。
- 指導的な会話ではなく、対話できるように和やかな雰囲気です。
  - ・ その場合は、ニックネームで呼び、親しみを持って接する。
- 指導する場合は、朝と放課後以外の場面で適時指導した。
  - ・ 指導する時は暴言などを絶対に許さず、納得するまで指導する。
  - ・ 過去のことを引き出さず、その行為だけについて、何が悪いのかポイントを確実に押さえた。
- 保護司と連絡を密に取り合い、互いに関わり合い、協力し合うことを確認した。

夏休みは、保護者も心配な面が多いということで、父親の仕事を手伝うことになりました。しかし、現実には厳しく3日間しか続かない状態でした。「今楽しければいい」という気持ちが強く、中学校生活最後の夏休みを楽しんだのでしょ。

夏休みは、毎日の電話連絡と1週間に2度の家庭訪問を行い、関係を持ち続けるようにしました。



#### 4 行動に変化が見られる

2学期を迎えるに当たり、担任としての思いを伝えました。本人の意志を尊重しながら、今後のことについて話し合いました。A男は、将来父親と同じ職業に就きたいと考えていました。そのために、我慢すること、続けることを大切にすること、時間を守ることの3つのことに取り組むことを決めました。

- 一日に出る授業。
  - 1学期は約束ができない状態でした。出るとは言うものの、途中で抜け出し、廊下で寝ていたりしました。保健室で過ごしたり、じっとすることができずに、苦しくなると早退をしていました。
  - 毎日、出る教科について担任と確認しました。
- 朝の登校時間の厳守（体育祭の朝練習に間に合う時間に登校する）
- 進路に関わる取り組みの実現

### (1) 体育祭の練習に早朝から参加

2学期に入り、体を動かすことが好きなA男は、体育祭の学級早朝練習に遅れることなく参加していました。それは、

- ① 学級の仲間の前で「体育祭の練習は、休まず参加する」と宣言したこと
- ② 走ることが好きだったこと

がエネルギーとなり、生き生きと体育祭練習に参加しました。学級の仲間と談笑する場面も多く見ることができました。

体育祭の練習には参加するものの、一方では、校内外を徘徊したり、問題行動を繰り返していました。

### (2) 対教師暴力を起こす

体育祭直前になって、対教師暴力を起こしてしまいました。体育祭の練習に休むことなく参加して、仲間から認められていたのに、こんな大きな事件を起こすとは思ってもよらないことでした。やはり、体育祭以外の活動には参加できなかったことや継続していた問題行動が、今回の事件につながってしまいました。

良い姿があることで、多少安心してしまった面が、担任や学級の仲間にあつたように思います。学級の仲間も、今回の事件に対しては裏切られた気持ちで一杯でした。A男を見る目は、本当に寂しそうでした。仲間の姿を見たA男は、よほど応えたのでしょうか。学級の仲間の前で謝罪しました。

### (3) 体育祭当日の遅刻

体育祭を迎えました。体育祭は午後の競技が始まってから、集中的な雨が降ったために、後日に延期になりました。

A男は延期されたことで、今までの疲れもあつたのでしょうか、翌日から遅刻するようになりました。体育祭から2日後に、後半の部を実施することになりました。しかし、当日の朝に体育祭後半の実施が決定されたため、A男には伝えることができませんでした。何度も家庭に連絡をしましたがつながりませんでした。ようやく担任から仕事先の母親がつながりました。母親に自宅に戻ってもらい、ぎりぎりで学級対抗リレーに間に合いましたが、仲間の寂しそうな目がかなり応えたようで、仲間の前で真剣な顔で謝罪をしました。

- ・ 自分のことを考えてくれる仲間に嫌な思いをさせたこと
- ・ 対教師暴力を起こして数日しか経過していないのに、また迷惑をかけたこと
- ・ 女子生徒の涙を見たこと

A男なりにその状況を真剣に受け止めていました。謝罪は、A男なりの責任の果たし方でした。

### (4) 仲間から認められ、頑張ることができた時(A男の行動に大きな変化が)

体育祭前に大きな問題を起こしましたが、体育祭までの頑張りや体育祭後の生活態度が変わってきました。仲間の「合唱祭の学級指揮者になって、みんなに認められるように頑張ってもらいたい」という願いを受けて、指揮者になりました。体育祭で失敗したにも関わらず、自分が裏切った仲間から再度チャンスを与えてもらったことで奮起しました。A男の行動に、頑張ろうとする気持ちが見られるようになりました。

合唱祭に向けて、指揮の練習が始まりました。10月には2週間ほど職場体験のために欠席しましたが、伴奏テープをダビングして、家で指揮の練習をしていました。家庭訪問の時に、その事実を母親から聞き、学級の仲間にも伝えました。A男の努力は、学級の合唱に対する気持ちを高めていきました。「A男が頑張っているから、私達も最高の歌声を・・・」と日に日に合唱練習に力が入っていきました。

職場体験から学校へ戻ってくると、明らかに表情や態度が変わっていました。職場体験を通して働くことの難しさや厳しさを感じ、自分自身が甘えていることを、職場の先輩たちから教えられてきたこともA男の心を変えていきました。

本格的に合唱練習が始まってからは、校外に出歩くことがなくなりました。早朝と放課後の合唱練習に参加するために、7:20には登校し、授業に出られない場合でも、相談室や職員室などで過ごし、放課後の練習に参加していました。そのA男の変化には正直驚きました。男気のあるタイプなので、みんなの期待を十分に感じ、仲間の頑張りにも応えたいという気持ちに加えて、目標を持って、努力することの楽しさを感じているようでした。

合唱祭の前に、全校集会でA男が指揮を振ることになりました。その様子を母親と保護司さんに事前に連

絡し、当日参観してもらいました。A男は堂々とした態度で指揮をすることができ、たくさんの人から誉められました。

## 5 学級に対する指導

一番苦労したことは、生徒同士の関わり方です。問題行動に振り回されてしまうと、他の生徒の過負担になってしまいます。

建て前としては、何とかしたいと思っけていても、実際は動けない現状を打ち破るために、担任のA男に対する思いや学級のみんに期待したいことなどを正直に話してきました。A男の状況について、全てを話すことで、生徒たちにも関わりたいたいという意識が生まれ、関わる生徒が増えていきました。

しかし、見て見ぬ振りを許さない雰囲気を作り出すことは大変でした。期間も要しました。職場体験学習でA男が登校しない日に、納得のいくまで話し合いをし、生徒の理解を得る努力を続けました。

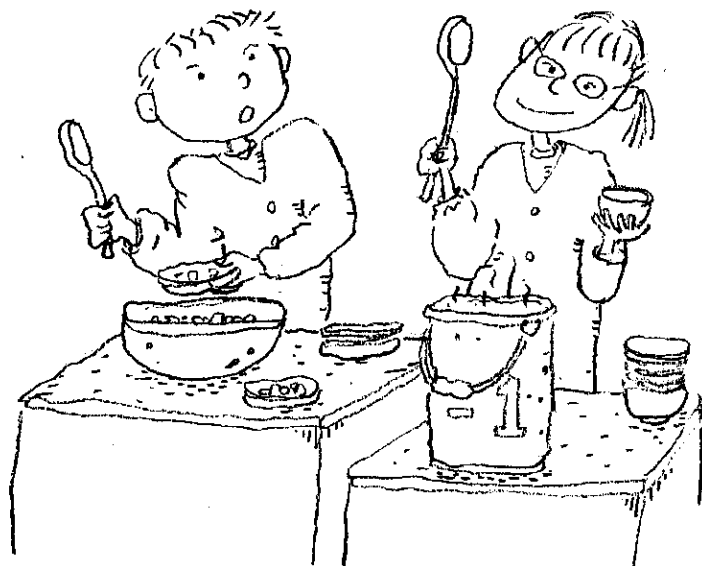
特に意識して指導したのは、次の点です。

- ・ 一人を大切にす意識を持たせる。
- ・ 罪を憎んで人を憎まない指導。(誰にでも良さはある)
- ・ 学級の生徒に過度な負担がないように、できる範囲での関わり方を。
- ・ A男の良い姿や頑張りを紹介し、仲間から認められる機会を多くした。
- ・ A男に関わった生徒を紹介し、できるだけ多くの生徒が関わりを持つように指導した。
- ・ A男の気になる行動は、学級の仲間の前で注意したりして、他人事とならないように伝えてきた。
- ・ 口先だけでA男に関わりたいたいという意識から、本当に関わるという意識で取り組む指導。
- ・ 学級の仲間には担任の思いを理解してもらえるように、話し合いの時間をとった。

A男にどのように関わるかを学級で話し合った。

担任として、学級の中に居場所があるようにしたい。ただ、A男に関わりを持ち、何かトラブルに巻き込まれたときは、担任が責任をとることを話し、A男がいるところで学級の仲間に伝えた。

- ・ 必要以上の関わりをして、自分にマイナスになるような関わりはしない。(授業にいない時、授業が始まったら探さないなど)
- ・ 口先だけで言うなら、関わらない。いい加減な気持ちで行動するのではなく、学級みんなが関わり、全員で卒業していく。
- ・ 自分なりに、何か関わりを持てるように努力する。(注意ができない人は担任に知らせる。挨拶する。話しかけるなど)
- ・ 問題行動があった場合は、本人の有無にかかわらず伝える (A男は了承済み)



学級としての大きな成果は、合唱祭前の全校集会で、学級が発表した時の指揮者A男です。指揮者として、多くの人から誉められた時に、学級の女子は服装について注意をしました。その注意をした女子には、頭が下がりました。普通、頑張った姿を見れば、気になることがあっても多少は目をつぶるのに、生徒の目はA男の状況を判断し、今なら直せると考えていました。

4月当初は、A男に対して、どちらかというに関わりを浅く持つ程度の意識しかありませんでした。口では綺麗事を言いながら本音とは違うという状態から、注意できる状態までに学級が成長したことが大きな成果となりました。

## 6 担任として配慮してきたこと

ここまでの道のりは容易ではありませんでしたが、試行錯誤しながら配慮してきた点は、次のようなことでした。

- ・ 問題行動を起こした時は、担任がまずは親身になって話を聞く。
- ・ 1週間に2～3度の家庭訪問を続けるだけでなく、誉めることについては家庭に随時連絡し、親からも誉めてもらう。
- ・ 教師からA男に近づいていき、誰よりもA男と接する時間を多くする。
- ・ 本気で叱る時は、なだめ役を他の教師に引き受けてもらう。(逆の場合もある)
- ・ 担任が自ら謝罪に向いたりして、A男の責任は担任の責任でもあると認識させる。
- ・ 保護者との懇談を学校や家庭で定期的に行い、担任の思いや保護者の思いをお互いに確認し合う。
- ・ 全職員に状況について理解をしてもらい、全校体制で関わりをもつ。
- ・ 学級の生徒には、A男の問題行動の事実について、常に話し、学級としてA男を支えていく体制を作った。

問題行動を繰り返している時、担任としてA男にどのように接していいのか不安になった時が何度もあります。指導の成果を上げられないのに、問題行動が続きます。そうすると、担任として指導方法に自信が持てなくなるのです。その対策として、次のように連携を図りました。

- ・ 全職員に理解してもらうために、毎週の職員打ち合わせで、A男の現状と来週の指導の力点を伝えた。
- ・ A男が問題行動を起こした時の対応について確認した。問題行動が起きた時は、すぐに複数の教師で対応する。
- ・ A男に対応できる教師へ指導サポートを依頼。(担任が叱る時はなだめ役にまたその反対の役も依頼)
- ・ 全職員が声をかけること。問題行動や気になる姿を見たときは、必ず声をかける。
- ・ A男に対する接し方の基本を共通理解した。感情的になるので、まずは話を聞くことから始める。
- ・ いい姿はその場で誉め、後で担任にも報告をする。

## 7 A男の変化

これまで述べてきたことを、まとめます。

4月～7月	授業に参加することはほとんどできない。 校内校外で問題行動を繰り返す。 6月に保護観察処分を受け、しばらくは落ち着くが2週間ほどで生活が乱れる。
夏休み	父親の仕事を手伝うと話していたが、3日間しか続かない。 夏休み中、父親の実家に3週間ほど行く。大きな問題行動なし。
9月	体育祭の早朝練習や放課後の練習に休まず参加。 対教師暴力を起こす。

10月	技能教科に参加できるようになってきた。校外に出ることはなくなった。 5教科についても参加できる回数が増えてくる。 授業に参加できない場合は、相談室か職員室で過ごす。 全校集会で学級合唱の指揮者として、みんなから認められた。 早朝の合唱練習に遅れることなく参加する。 2週間の職場体験学習を終え、精神的にも落ち着いてくる。
11月	授業に参加する時間が増え、1日に4時間ほどは参加できる。 合唱祭の指揮者としての責任を果たし、最優秀の表彰を学級代表として受賞した。
12月～1月	非常に落ち着いた態度で学校生活を送ることができた。 授業に参加できない場合は、職員室でワープロ日記を打つ。 冬休みは家族と過ごし、問題行動はまったくなかった。
2月～3月	全授業に参加できるようになった。 正しい制服で生活できるようになった。 髪型も丸坊主にして、気持ちを切り替えたと話す。 卒業式の学級解散式の指揮者に選ばれる。 職場体験学習を2週間行う。
卒業式	感動の卒業式となり、学級解散式では涙ながらに指揮を努め、学級の仲間や保護者の前で感謝の気持ちを話す。

## 8 A男から学んだこと

問題行動を起こす生徒に対しては、特に指導的な立場で接することが多くなりますが、それだけの関係にならないように配慮することが必要です。頭では分かって、問題行動が続くと、生徒の気持ちを理解することがうまくできなくなり、諦めの気持ちも生まれがちです。教師の余裕がなくなった時に、どのように気持ちを整理し、関わっていくかが難しいことです。A男から学んだことをまとめてみます。

### ① 担任として、生徒に対する思いや願いをもつ

生徒や保護者に対して、担任として、学年として、学校としてどのように対応していくかを、まずははっきりと伝える必要があります。そのためには、担任としての思いや願いを強く持つことが必要です。学級の生徒に問題行動が起きると、生徒に対する思いが弱くなったり、指導法に不安を感じることもあります。そんな時ほど生徒に対する思いを強く持ち、状況に対応していくことが必要です。担任の思いが明確でなければ、他の教師も協力することができません。

### ② 自分一人で抱え込まないで

自分の学級の生徒だからといって、一人で対処しようとしたり、抱え込んでしまっただけでは、効果的な指導にはつながりません。学年や全職員に協力してもらえ環境を整える必要があります。情報はオープンにして関わる教師を一人でも多くしていきましょう。そのために、悩みや不安などを、自分から学年主任や隣の学級担任など、身近な気軽に話せる人に話すようにしましょう。

### ③ 保護者との関係を大切に

生徒に指導する上で、親の存在が大きく影響してきます。親にそっぽをむかれたりすれば、生徒だけでなく、親とも疎遠になりがちです。親の協力を得るためにも、地道に足を運ぶことです。次第に親の協力が得られるようになっていきます。親に変化が見られた時に、子どもに変化が見られるようになります。親との信頼関係を築くことは、絶対に必要なことです。表面的な関わりでは親は動きません。誠意をもち、心で接

していきましょう。

#### ④ 学級の仲間との関わりを大切に

問題行動を起こす生徒の居場所を、学級の中につくることが大切です。また、学級の仲間が関わりを持つように、手立てを講じることも必要となります。

教師が指導するよりも、生徒同士で関わりを持たせた方が効果がある場合があります。学級の生徒には「起きた問題行動を許さず、人を憎まず」という指導を続けましょう。同時に、学級の生徒が安心して生活できるようにしなければなりません。問題行動を起こす生徒に振り回されがちな時ほど、学級経営に力を入れる必要があります。

#### ⑤ 結果を求め過ぎず、じっくりと

最終的には結果を求めますが、その過程では、早急に結果を求めず、気長にじっくりと生徒に関わっていきましょう。焦りがあると、視野も狭くなり、対応も目先の指導になりやすく、生徒にじっくりと関わるのが難しくなります。焦らず・じっくりと・気負わず・落ち着いて指導をしましょう。

#### ⑥ 対応する教師のフォローを

問題生徒を抱えた担任は、時間的、精神的に負担が大きくなり、表情も暗くなりがちです。そういう時ほど、職員室で気軽に話せる雰囲気やお互いが協力できる仲間関係を築くように心がける必要があります。

教師も人間です。問題行動を起こす生徒が多くなれば、学年全体、学校全体の雰囲気も暗くなります。まずは、教師がお互いを支え合う体制を確立させましょう。問題生徒を抱えた担任の思いや対応する教師の思いを理解し、生徒のフォローができる教師集団でありたいものです。関わる教師の数が多くなれば、それだけ負担も軽減されるはずです。役割分担にこだわらず、各々が自ら協力的に動く状況があれば、きっと困難な道も乗り越えられるはずです。

#### ⑦ 問題行動が起きた時は即対応

問題行動が起きた場合こそ、チャンスととらえ、速やかに生徒と関わりましょう。担任だけに任せずに、対応できる教師全員で指導にあたる勢いも必要です。

そのためには、普段からの生徒との関係づくりも必要です。普段何も声をかけない教師、見過ごしている教師が指導することは困難なことです。日頃の生徒との関わりが、迅速な対応を生み出します。

